

## 2012年版発刊に向けて

昨年は東日本大震災により未曾有の災害がもたらされました。津波とそして原子力発電所事故と二重の苦難を背負わされることになり、その復旧と復興の鐘音もいまだ大きく響くことがありません。

このように、我が国は世界でも比類のない災害多発地域に位置していることを身をもって実感させられました。津波に翻弄され、津波とともに持ち去られた時間の痛ましさは忘れられません。そこそこに残る傷を負った建造物をみると、ますます我々鉄筋工事業の使命と役割の大切さを改めて納得させられました。

建設業界においても、元請と下請の関係の適正化が強く叫ばれ、さらに社会保険未加入問題の解決に向けた取り組みは、建設業界にとって世間並みの規範をもってその役割を果たすことができるのか、踏絵を突き付けられたに等しい社会の眼の厳しさ、に直面していることでもあります。

さて、この度「鉄筋工事加工手順書」が10年ぶりに改訂されることになりました。仕様や規格の改定（改訂）は我々を待ってくれることはできません。従前どおりでは世に立ち遅れ、鉄筋工事を通じて国土の整備・保全、さらには国民生活の安全と安定に貢献することはできません。日々が勉強であり、挑戦もあります。この「加工手順書2012年版」が鉄筋工事に従事する多くの皆様への羅針盤であり、方向指示器でもあってほしい、と願っております。

会員の皆様の協力もさることながら、改訂を取りまとめていただいた技術・教育訓練委員会技術分科会の方々の情熱に感謝いたします。

平成24年8月

公益社団法人 全国鉄筋工事業協会

会長 内山 聖

## 「鉄筋工事加工手順書2012年版」発刊について

2002年版から10年が経過して、かなり規格・仕様等の改定が進んできている中で、改定期を躊躇しておりましたが2010年にJISG3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」の改定、日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」の改訂を契機に、加工手順書の改訂に着手し、ここに2012年版を発刊することになりました。

2012年版にて改訂した主要な部分は；

- ・ JISG3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」
- ・ 鉄筋加工機の最新型等の掲載
- ・ 曲げ加工の基準 鉄筋末端部の折り曲げ形状・寸法  
　　加工寸法の許容差
- ・ フープ・スターラップ 類切断寸法一覧表に「D19」を一部追加
- ・ 階段の加工における床版厚さに180m/mを追加、いなずま筋寸法早見表を1m/m単位として掲載

と、なっています。

用語の統一も難しく混用されている点、あれもこれもと盛沢山な案も掲載するまでに至らなかつた点などについてはご容赦をお願いいたします。正確な加工は、正確な鉄筋工事への登竜門となります。この加工手順書をご活用いただければ幸いです。

平成24年8月

公益社団法人 全国鉄筋工事業協会

技術・教育訓練委員会技術分科会

委員長 館岡 正一（東鉄協）

委 員 熊谷 誠一（北海道）

委 員 新妻 尚祐（東鉄協）

委 員 坂田 護（東鉄協）

委 員 神田 幸夫（新潟）

委 員 飯島 勉（愛知）

委 員 井手口 勉（佐賀）

---

目 次

---

2012年版発刊に向けて .....	i
「鉄筋工事加工手順書2012年版」改訂にあたって .....	ii
1. 材 料（鉄筋コンクリート用棒鋼） .....	1
2. 加 工 形 状 .....	3
3. 鉄筋加工機 .....	13
4. 曲 げ 加 工 .....	33
5. 標準的な曲げ加工に必要な数値 .....	47
6. 階段の加工 .....	49
附 錄 鉄筋棒鋼に関する資料 .....	67
旧版「2002年版」関係資料 .....	73